

特別の教育課程についての自己評価・学校運営委員会による評価

1. 学校評価（教員）

（1）「プロジェクトタイム」

- ・令和4年度はwith コロナのもと、感染対策を施しながら各学年の探究課題に沿って、体験活動や聞き取り調査、発信を行った。外部人材や ICT の効果的な活用により学びを深め、それぞれの課題に向かっておおむね活動することができた。地域の人材が豊富で、専門的経験や知識をもった講師の方々から積極的な支援を得ることにより、より探究活動を深めることができた。

（2）「コミュニケーションタイム」

- ・全学年の授業において ALT がサポートを行い、児童生徒が本物の英語に触れる機会を豊富に設けることができた。外部人材との交流を授業に取り入れ、生徒が学習した知識及び技能を用いて自分の思いなどを多様な方法で発表する場面を設けたり、外国の文化的行事について体験して理解を深めたりすることができた。
- ・後期課程では、学習活動を発信する場面で外部人材を招き、その場でやり取りすることで生徒自身が自分の英語力を客観的に捉え、今後の目標をもつことに繋げることができた。

2. 学校運営委員会評価

（1）「プロジェクトタイム」

- ・田植え体験やカジカ、アユの放流等、学校運営委員自身が地域の先生として講師を務める自然体験もあり、学校と連携・協力していくことで、ふるさとに誇りと愛着をもつ子どもたちの育成に繋がっていると考えます。地域人材や専門的知識をもった講師を招聘し活用することを、今後も継続、推進してほしい。また、児童生徒自身が、探究し発信していくことによる効果を今後も見せて欲しい。

（2）「コミュニケーションタイム」

- ・1年生からの英語活動で英語のシャワーを浴びることにより、日常的にコミュニケーションを図ろうとしている姿が見られる。また隣接のこども園とも英語交流をしており、幼小中の連携を通して英語によるコミュニケーション力が一層高まるのではと期待している。前期課程からの英語検定の取得にも積極的な取組を行い、推進して欲しい。